

formosusとはラテン語で「美」を意味します。古代ローマに造られた建築の美しさを表現したものです。東北の豊かで美しい自然を生かした社会資本整備には「用・強・美」が必要であり、集大成された「美」を追求していきたいとの思いで本誌のタイトルにしています。

国土交通省 東北技術事務所 電子広報誌 WEB formosus(フォルモス)発行事務局 発行2019.3.8

## 高校生「橋梁模型」作品発表会



### ～受賞作品決定!!～

## 目次

	ページ
◇第17回(平成30年度)高校生「橋梁模型」作品発表会を開催	2
◆【事務所支援】12管理事務所へH30橋梁診断結果を報告	3
◇【事務所支援】トンネル健全性判定会議へオブザーバーとして出席	3
◆護岸用コンクリートブロック張モデルが完成 ～災害時の緊急復旧資材として活用される護岸用コンクリートブロックを展示～	4
◇第3回東北土木技術人材育成協議会 H30基礎技術講習会の実施結果	5
◆多賀城インフラ技術交流会「現地視察会」を開催しました	6
◇遠隔操作式バックホウ基礎技術講習会の実施	7
◆応急組立橋架設点検の実施、災害対策用機械の紹介(応急組立橋)	8～9
◇ゆきみらい2019in新庄出展報告	10
◆平成30年度 所内業務報告会を開催しました	11
◇NETIS新技術の紹介	12
◆東北技術事務所の歴史を辿る～ニノ技～	13～16
◇H30年度講演会等への発表、EE東北'19まもなく開催!、あとがき	17

## 第17回(平成30年度)高校生「橋梁模型」作品発表会を開催

第17回高校生「橋梁模型」作品発表会は、平成31年2月14日(木) せんだいメディアテーク(仙台市青葉区)で開催しました。

当発表会は、土木技術を学び将来の社会資本づくりを担う高校生に、模型づくりを通じて橋の種類や構造などの知識を深めてもらうとともに、ものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的として開催し、今回で17回目の開催となりました。

今回、東北6県の土木系高等学校19校から30作品の応募があり、1月24日(木)に開催された一次審査より選出された上位12作品を二次審査として公開展示を行い、来場された一般の方々からの投票審査と、高校生(製作者)が、苦労した点や工夫した点などについてのプレゼンテーションを行い、審査員の最終協議を経て、最優秀賞などの各賞が決定しました。

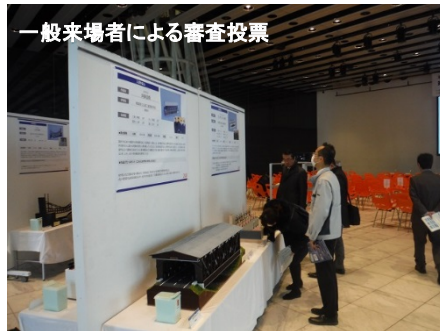
審査の結果、青森県立弘前工業高等学校の生徒が製作した「阿蘇望橋(あそぼうばし)」が最優秀賞を獲得しました。当作品は、細部にわたり丁寧かつきれいに表現され、実際の橋を渡っているような出来映えとの審査員方々から高い評価を得ました。

入賞した12作品は、今年の6月5日～6日に夢メッセみやぎ(仙台市宮城野区)で開催する「建設技術公開E E東北'19」で展示する予定です。

是非、多くの皆様にご覧いただけるようご来場をお待ちしております。



二次審査会場の様子



一般来場者による審査投票



高校生によるプレゼンテーション

### 第17回高校生橋梁模型作品発表会入賞作品



最優秀賞/プレゼンテーション賞  
阿蘇望橋

青森県立弘前工業高等学校



優秀賞/プレゼンテーション賞  
金名橋

秋田県立大館桂桜高等学校



優秀賞  
タウシュベツ川橋梁

山形県立山形工業高等学校

受賞名	学校名	作品名
最優秀賞 プレゼンテーション賞	青森県立弘前工業高等学校	阿蘇望橋
優秀賞 プレゼンテーション賞	秋田県立大館桂桜高等学校	金名橋
優秀賞	山形県立山形工業高等学校	タウシュベツ川橋梁
審査員特別賞	青森県立弘前工業高等学校	金峰2000年橋
審査員特別賞	仙台市立仙台工業高等学校	宇治橋
審査員特別賞	秋田県立能代工業高等学校	馬見原橋
努力賞	青森県立青森工業高等学校	アレクサンドル3世橋
努力賞	青森県立弘前工業高等学校	チャットワースハウスのアーチ橋
努力賞	仙台市立仙台工業高等学校	かずら橋
努力賞	山形県立山形工業高等学校	鶴の舞橋
努力賞	創学園高等学校	内田三連橋梁
努力賞	創学園高等学校	犀川大橋



## 【事務所支援】 12管理事務所へH30橋梁診断結果を報告

## 目的

東北技術事務所では東北地方整備局が管理する管内橋梁の点検・診断を実施し、道路インフラの現状把握に努めています。

今年度は約600橋の点検診断結果をとりまとめ、12管理事務所にて「H30橋梁診断結果報告会」を実施し、メンテナンスサイクルが確実に回るよう支援しました。



H31.2.12 郡山国道事務所

## 実施状況

- H31.2. 5 酒田河川国道事務所
- H31.2. 7 秋田河川国道事務所
- H31.2.12 郡山国道事務所
- H31.2.14 福島河川国道事務所
- H31.2.15 山形河川国道事務所
- H31.2.19 青森河川国道事務所
- H31.2.21 三陸国道事務所
- H31.2.22 岩手河川国道事務所
- H31.2.26 仙台河川国道事務所
- H31.2.27 能代河川国道事務所
- H31.2.28 湯沢河川国道事務所
- H31.3. 5 磐城国道事務所



H31.2.14 福島河川国道事務所



H31.2.19 青森河川国道事務所

## 【事務所支援】 トンネル健全性判定会議へオブザーバーとして出席

## 出席状況

11管理事務所にて開催されたトンネル健全性判定会議へ出席し、メンテナンスサイクルが確実に回るよう支援しました。

- H31.2. 5 酒田河川国道事務所
- H31.2.12 郡山国道事務所
- H31.2.14 福島河川国道事務所
- H31.2.15 山形河川国道事務所
- H31.2.19 青森河川国道事務所
- H31.2.21 三陸国道事務所
- H31.2.21 南三陸国道事務所
- H31.2.22 岩手河川国道事務所
- H31.2.26 仙台河川国道事務所
- H31.2.27 能代河川国道事務所
- H31.3. 5 磐城国道事務所



H31.2.5 酒田河川国道事務所

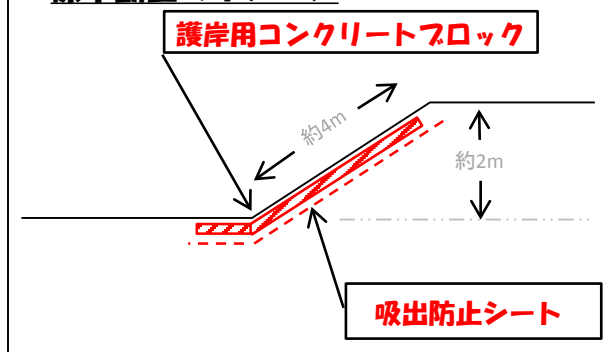


H31.2.21 三陸・南三陸国道事務所

# 護岸用コンクリートブロック張モデルが完成 ～災害時の緊急復旧資材として活用される護岸用 コンクリートブロックを展示～

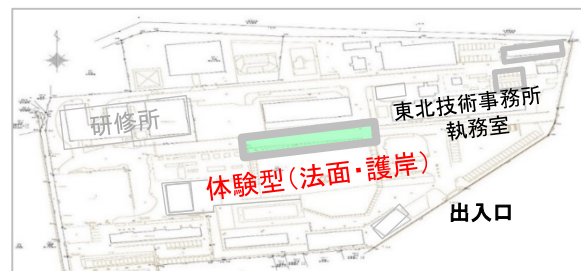


## 標準断面のイメージ



## 4メーカーのブロックを展示

### 東北技術事務所 位置図



- 平成30年3月16日に東北技術事務所と公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会東北地区協議会が覚書を締結し「河川の護岸用コンクリートブロック張モデル」を東北技術事務所構内に展示することとなりました。
- この護岸用コンクリートブロックについてモデルを展示し、河川護岸の構造等の基礎技術の習得や災害時の活用技術を習得する教材として利用します。
- 今般、護岸用コンクリートブロック張モデルの完成式を平成30年12月7日に行いました。



完成した施設を前に記念撮影

問い合わせ先：品質調査課  
電話番号 022-365-7988



# 第3回東北土木技術人材育成協議会

平成29年3月に設立された「東北土木技術人材育成協議会」の第3回協議会を下記のとおり開催しました。

日時：平成31年2月25日(月) 13:30~14:30

場所：東北地方整備局 12階 大会議室

- 議事： 1 新規加入団体について  
 2 覚書の改訂ならびに名簿の改訂  
 3 今年度の活動報告  
 4 次年度の活動方針



## 主な議事結果

- 1) 次年度から、新規に(一社)東北建設マネジメント技術協会、(一社)東北地域づくり協会の2団体を加え、協議会の構成団体は17団体とする。
- 2) 覚書ならびに名簿は、2団体追記して改訂する。
- 3) 今年度の講習会に対する受講者アンケート結果が高評価であったことから、来年度も同様の講習会を継続して実施する。
- 4) 市町村や県の外郭団体職員についても講習会参加を認め、募集は県を通じて行う。
- 5) 多様な受講者に対応するため、セミナーや見学会などを開催することも検討していく。

## 平成30年度 基礎技術講習会の実施概況

- 平成29年度に全国初の官民合同講習会としてスタートし、平成30年度は回数・会場を拡大して実施
- 土木は3回開催に拡大 (H29は2回) ● ICT,UAVは7会場(6県+仙台市)開催に拡大 (H29は1会場)
- 回数の増により、受講者は平成29年度 391名→ 884名 に増加 (2.3倍増)

講習会	開催月日 (平成30年度)	開催場所	受講者数			受講者数		
			合計	官	民	合計	官	民
土木	第1回	土工	124名	66名	58名	29名	13名	16名
		アスファルト				26名	17名	9名
		コンクリート				35名	17名	18名
		構造物設計				34名	19名	15名
	第2回	土工	119名	87名	32名	28名	19名	9名
		アスファルト				26名	20名	6名
		コンクリート				34名	25名	9名
		構造物設計				31名	23名	8名
	第3回	土工	97名	69名	28名	30名	19名	11名
アスファルト		21名				18名	3名	
コンクリート		23名				15名	8名	
ICT,UAV	青森県	6県・政令市 (7会場)	520名	229名	291名	23名	17名	6名
	岩手県					98名	40名	58名
	宮城県					65名	36名	29名
	仙台市					74名	29名	45名
	秋田県					94名	34名	60名
	山形県					77名	41名	36名
	福島県					70名	35名	35名
遠隔操作 バックホウ	青森県	東北技術 事務所	24名	24名	4名	4名		4名
	岩手県					4名		4名
	宮城県					4名		4名
	秋田県					4名		4名
	山形県					4名		4名
	福島県					4名		4名
			884名	451名	433名	884名	451名	433名



問い合わせ先：総括技術情報管理官  
 TEL 022-365-8211 (代)

# 多賀城インフラ技術交流会 「現地視察会」を開催しました

◇開催日	平成30年11月5日（月）		
◇視察現場	国道45号災害復旧・復興事業 三陸沿岸道路（歌津～本吉）	小泉大橋（橋長：455.0m） 津谷川橋（橋長：190.1m）	
◇参加者	東北学院大学工学部 多賀城市建設部 塩釜港湾・空港整備事務所 東北技術事務所	2名 4名 8名 7名	計21名

多賀城市内にある東北学院大学工学部、多賀城市建設部、塩釜港湾・空港整備事務所、東北技術事務所の技術系職員等の技術力向上と情報交換を目的に「多賀城インフラ技術交流会」を平成24年度から年2回開催しています。

今回視察した現場は、東北地方整備局仙台河川国道事務所で事業を進めている国道45号災害復旧・復興事業の小泉大橋と三陸沿岸道路（歌津～本吉）の津谷川橋の現場を視察しました。

国道45号災害復旧事業の小泉大橋は東日本大震災により桁の流出、P3橋脚の流出など甚大な被害を受けました。新橋の早期完成を目指し、橋梁下部工及び上部工が完成し、今後は土工工事が進められます。

三陸沿岸道路事業（歌津～本吉）は、歌津ICから卯名沢ICまでの10Kmが平成31年2月16日に開通しました。

多賀城インフラ技術交流会「成果報告会」を3月13日に行う予定です。





# 遠隔操作式バックホウ基礎技術講習会の実施

東北土木技術人材育成協議会では、平成30年11月13日～28日の間、東北6県の建設業者の建設機械オペレータを対象に、災害発生時により迅速に対応出来るオペレータを育成するため、遠隔操作式バックホウの操作講習会を東北技術事務所構内で実施し、24名が受講しました。

本操作講習会は、平成25年度より実施しており、今年度で6回目となり、これまで49名の方が受講し、災害発生時の際に操作できるように備えております。

## 【講習内容】

### 1. 学科講習

- ①訓練目的
- ②派遣要請の流れ
- ③災害対応事例
- ④遠隔操作式バックホウ取扱説明

### 2. 実地講習

- ①遠隔操作講習(目視)
- ②遠隔操作講習(モニター)

## 【受講者数】

地区名(開催月日)	H30	H25~30
青森県(11/15)	4	12
岩手県(11/16)	4	11
宮城県(11/28)	4	7
秋田県(11/26)	4	8
山形県(11/13)	4	7
福島県(11/20)	4	4
合計	24名	49名

## 【学科(取扱い説明)】



## 【遠隔操作講習(大型土のう積)】



## 【遠隔操作講習(遠隔目視)】



## 【遠隔モニター操作講習】



講習会の目的は、土砂崩れなど、災害現場の危険な箇所においてオペレータが乗らずに遠隔操作により、復旧作業を行う訓練です。

今後もさらに講習を継続し、災害発生時には迅速な対応が出来るように人材を育成して参ります。

# 応急組立橋架設点検の実施

## ●大規模災害に備えた訓練の実施

東北技術事務所では、災害時に設置される仮設橋、「応急組立橋」の架設点検を職員及び災害時の応援協定している方々等およそ20人が参加し、12/11（火）に実施しました。

東日本大震災のような大規模災害が発生した場合、落橋或いは、津波による流出等、交通が寸断され、被災地のライフラインが途絶えた場合緊急の輸送路を確保するため、応急組立橋の役割は非常に大きいものがあります。

一括架設の見学状況



H20岩手宮城内陸地震で活躍



架設～点検状況



架設完了



### ★今回架設点検の応急組立橋の特徴について

- ①型 式:組立式ポニーワーレントラス橋
- ②橋 長:16～40mまで4m毎
- ③幅員構成:6.5m(車道2車線)+1.5m(歩道)
- ④設計加重:B活加重
- ⑤導入年度:平成5年度

忘れた頃にやってくる、「災害」に慌てず、迅速かつ円滑に災害対応できるように日頃より訓練を実施します。



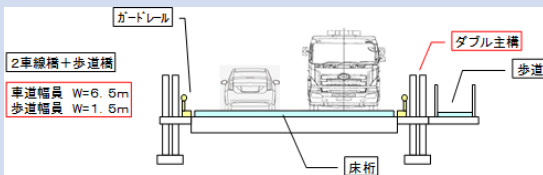

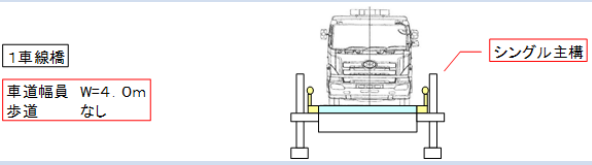
# 災害対策用機械の紹介

東北技術事務所では、河川、道路、砂防等の災害等に対し、災害対応の円滑な実施を図るため各種の災害対策用機械を保有しています。

今号では、橋が壊れた場合や、緊急的に橋が必要となった場合に架設する応急組立橋を紹介します。

## 応急組立橋の特徴

- 橋の長さを現場条件にあわせて調整することができます。  
2車線+歩道タイプは16m～40mまで4m毎に調整ができます。  
1車線タイプは10m～40mまで2m毎に調整ができます。
- 分解組立を前提とした構造なので、迅速に架設することができます。

タイプ	2車線+歩道	1車線
外観	 	 
形式	本橋:組立式ポニーワーレントラス橋 取付桁: 鋳桁橋	本橋:組立式下路式ワーレントラス橋 取付桁: 鋳桁橋
支間	本橋:16～40mまで4m毎 取付桁:12m×2(両端)	本橋:10～40mまで2m毎 取付桁:14m×2(両端)
道路規格	第3種4級 V=50km/h	第3種4級 V=50km/h
幅員構成	車道:6.5m(2車線) 歩道:1.5m	車道:4.0m 歩道なし
設計荷重	B活荷重	B活荷重

# ゆきみらい2019 in 新庄 出展報告



ゆきみらい※2019が平成31年2月7、8日に山形県新庄市で開催されました。

東北技術事務所は、除雪機械展示・実演会に出展し、平成28、29年度に仕様等を検討し平成30年度購入された「雪庇処理車（実車）」をはじめ、平成26～28年度検討し普及を図っている「除雪グレーダ後方検知システム」また、除雪業者PRのため「山形県内除雪業者紹介パネル」を展示し、多くの見学者で賑わいました。

展示・実演会は初日1,200人、2日目700人の合計1,900の方が来場され、除雪機械の展示や実演を熱心に見学していました。

（昨年（2018年）の富山と同じ入場者数となりました）



東北技術事務所展示ブース

## 災害対策本部車内での展示



※ ゆきみらい

国・地方公共団体・企業・NPO・市民団体等から、克雪・利雪技術の課題や研究、雪に強い街づくり、雪国の自然環境・歴史・文化の継承など、ハード、ソフト両面にわたる様々な取り組みに対する意見交換や情報交換を通じて、雪国の未来を展望し、さらに全国へ雪国の情報発信を行うことにより、地域の活性化を図ることを目的として開催します。北海道、北陸、東北でリレー開催しており、開催地の県・市と共同で実施しています。東北地方での開催は11回目です。





# 平成30年度 所内業務報告会を開催しました

技術情報管理官・品質調査課

東北技術事務所では、「技術支援」「人材育成支援」「災害対策支援」の3つの支援を基に、東北管内事務所や各自治体と建設技術をつなぐ絆となり、社会資本整備を支えるための取り組みを行っています。

平成30年度に東北技術事務所各課において実施した業務等の中から6題について、業務報告の発表を行いました。発表では、スライドやプロジェクト等を使用し、聴講者に分かり易い説明がなされ、発表に関する活発な質疑応答が交わされました。この業務報告会は、東北技術事務所が実施している業務を広く知っていただくため一般公開しており、一般の方も聴講にお見えになりました。

また、論題内容の構想や業務の改善向上の意義、論文のとりまとめやプレゼンテーションについて審査を行い、審査結果により、東北技術事務所長から賞状を進呈しました。



発表論題	
1	RC床版の耐久性向上に及ぼす施工方法・材料等の影響について
2	コンクリート打設における締固め時間の影響について
3	除雪グレーダの自動化に向けた検討
4	津軽ダム堤体コンクリート長期品質管理について
5	東北管内河川堤防情報把握業務について
6	平成30年の災害対応について



最優秀賞(3.除雪グレーダの自動化に向けた検討)



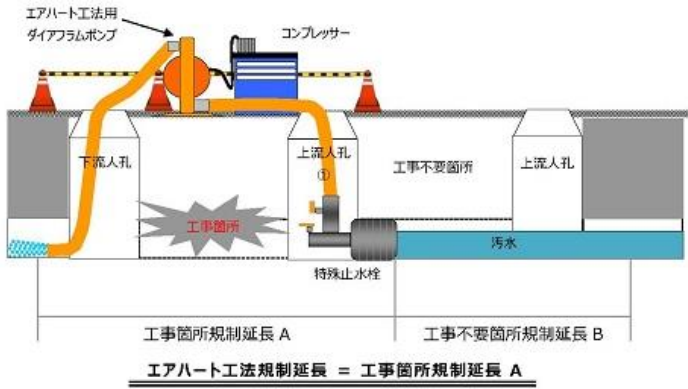

# NETIS 新技術の紹介


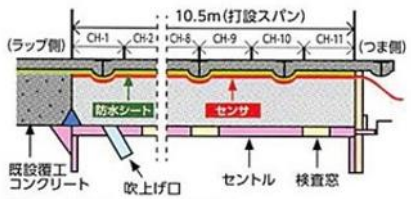

## 東北で採用されたNETIS登録技術

新技術情報提供システム＝NETIS（**N**ew **T**echnology **I**nformation **S**ystem）は公共事業において新技術の活用を促進することを目的として、平成18年より運用している情報データベースです。平成31年2月現在、NETISには2,864件の技術が登録されています。

今回は、11月から2月の間に、登録した2技術を紹介します。

番号をクリックすると公式サイトで  
技術の詳細情報が確認できます  
↓

1 簡易水替工法（エアハート工法）	登録番号	TH-180009-A
<p>本技術は下水道供用中の下水道管の布設替え工事、管渠更生工事、下水道TVカメラ調査業務等の際に、仮設工である下水の水替工の設置・撤去をスピーディーに且つ安全で衛生的に行うことができる簡易水替工法である。</p>		
 <p style="text-align: center;"><b>工法施工図</b></p>	 <p style="text-align: center;"><b>工法資材一式</b></p>	

2 コンクリート充填管理システム「ジュウテンミエルカ」	登録番号	TH-180010-A
<p>本技術は複数の検知部を有する薄型シート状センサを用いてコンクリートの充填状況を管理するシステムである。従来は点で温度計測をする熱電対で充填監視をしていたが、本技術は薄型シート状センサの範囲全体の充填状況をまとめて監視出来る為、構造物の品質が向上する。</p>		
 <p style="text-align: center;"><b>システム構成</b></p>	 <p style="text-align: center;"><b>トンネル覆工コンクリートへの適用例</b></p>	 <p style="text-align: center;"><b>モニタ表示例</b></p>

新技術の登録や活用について、ご不明な点がある場合は、お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先：施工調査・技術活用課  
電話番号 022-365-7983



新シリーズ 第2回目

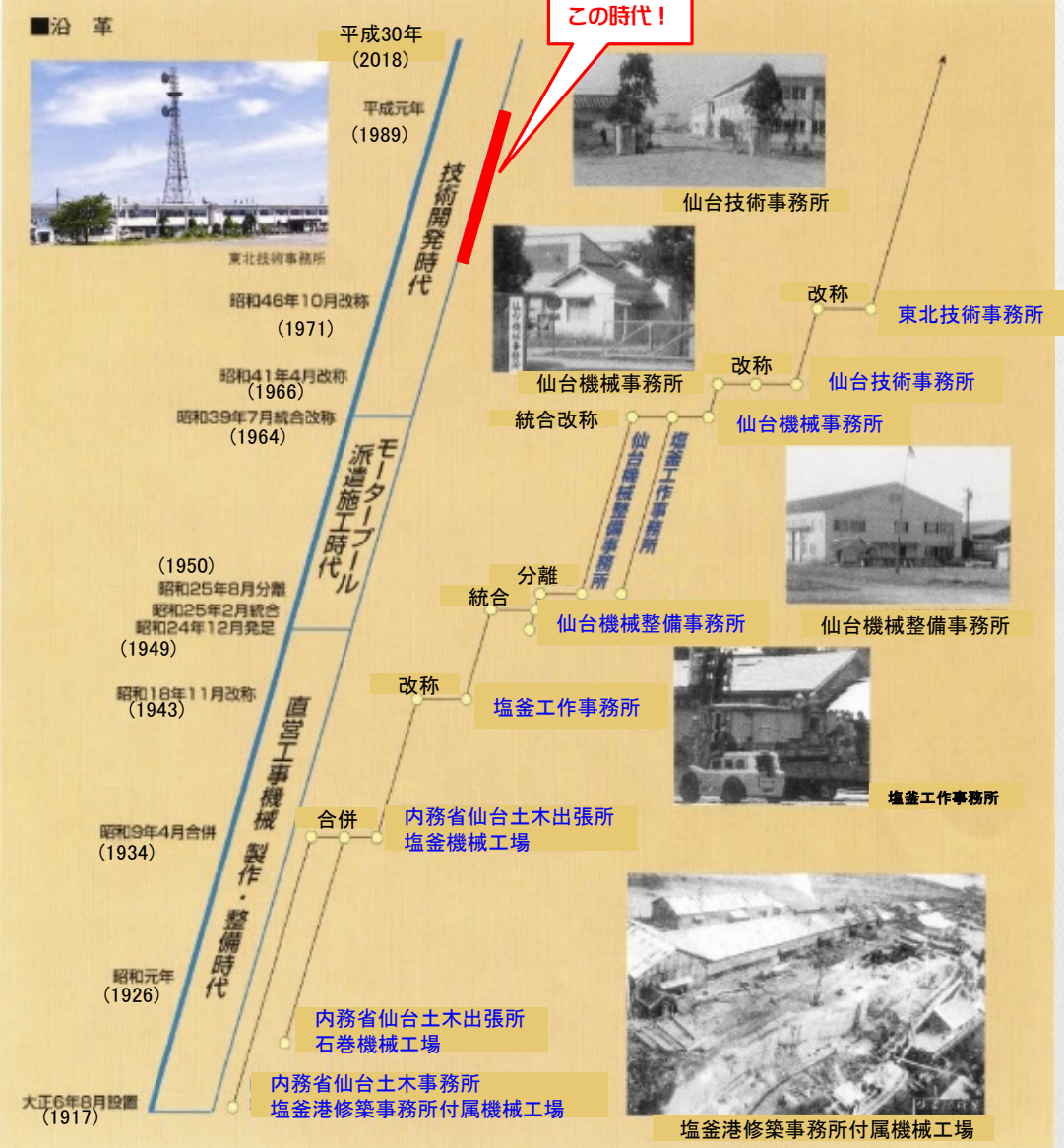
# 東北技術事務所の歴史を辿る<sup>たど</sup>

## ～ 二ノ技 ～

前月号から始まりました「東北技術事務所の歴史を辿る」シリーズ第2回目の今回は、東北技術事務所の舗装に残されている不思議なマークについて深く掘り下げます。そこから、どんな歴史が見えてくるのか・・・**技術開発時代**を紐解きます。



何かの足跡・・・?





## ■構内の不思議な路面マーク???

東北技術事務所内の舗装をよく見てみると、舗装に何か不明なマーク・傷跡がある場所があった。通常の舗装では見られないその痕跡…東技でいったい何が行われていたのか!? ……………その謎にせまる。



▲不思議写真A

←丸いものを引きずっている…??

線が2本→



▲不思議写真B

東北技術事務所(略称:東技)の歴史を知る“東技師匠(機械部門)”にお話を伺いました。

謎解きをする前に、技術事務所の歴史を少し振り返ってみましょう。

東北技術事務所は、S41年の仙台技術事務所を経て、S46年に現在の名称になり、技術事務所としては50年以上を過ぎました。技術事務所の黎明期は、先の号でも紹介しました「直営派遣施工」から、河川・道路の改修に伴う本格的な請負工事へと工事形態が大きく変化して来た時期で、これらの維持管理にも本格的な機械化を進めるため、様々な機械開発が始まった頃でもありました。事務所HPの「施工技術の支援—技術開発の取り組み」サイトには最近の事例の他に「建設機械に係る開発の歴史として、古くはS30年代(技術事務所の前身の工作事務所)からの機械開発の歴史を紹介しています。資料には機械名称と概要、写真等が開発年度順に掲載されており、開発50年の歴史の中にあって「除雪機械の開発」は黎明期から現在に至るまで途切れることなく続いているのが判ると思います。また、除雪機械以外でも河川維持用、道路維持用等が主流となっており、その時代のニーズに応じた開発が続けられてきたことが解ります。

機械開発のスタイルも当時から変化しており、黎明期は機械工場もあり、試作機から実用機までをほぼ直営で対応が可能でしたが、機械工場の縮小とともに製造メーカー等との共同開発方式に移行していきました。昭和の後半から平成にかけては共同開発が盛んで、試作機を持ち込んで構内で試験を繰り返す、小さな機械装置から大型建設機械まで開発を進めていた時期でありました。このように技術事務所の構内は試験フィールドとしての役割もあり、機械開発に限らず様々な調査試験においても活用されていました。特に構内の舗装をよく見ると、様々な舗装がパッチワークのように施工されており、その殆どが試験施工と思われる。これらの中には相当の年代物もあり、当時の試験フィールドの痕跡が現在も残っているものがあります。



“東技師匠(機械部門)”

東北技術事務所HP [施工技術の支援]—[技術開発の取り組み]の場所は、下記アドレスです。Check it out!!

<http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/kenetsu/sekou/kaihatsu.html>



## ■構内の不思議な路面マーク???

少々前置きが長くなりましたが、そろそろ謎解きをしたいと思います。  
1つ目の写真Aです。リング状の切削跡が散在しているものですが、これは、年表No.24の「小型アスファルト路面整形機」のカッター性能試験の痕跡と思われます。この機械は当時As路面が流動により路側等に形成される帯状の不陸(凸を)を縦型回転ドラムで整正する機械で、交通障害を考慮してハンドガイド式にしたものです。(当時のパンフレット下記参照)当該機械は、昭和の終わり頃まで道路事務所に数台納入され、最盛期には複数の事務所で取り合いになるほど活躍しましたが、現在では残念ながら配備されていません。舗装の性能が向上し、不陸整正頻度が大幅に減少したことによるものと思います。機械開発とはこうした側面を内在していますが、短い期間であっても現場の課題解決に寄与できれば開発者にとっては大変喜ばしいことです。



工事写真



加熱方式による切削作業



切削スリの処置作業



施工前の帯状不陸状況(不陸高7cm)



切削後の路面状況(切削幅50cm)

複数の事務所で取り合いに!?  
なるほど～、回転しながら削っているわけですね。道路の脇にわだちがあるとバイク・自転車の方々に危ないですね。現在は舗装が良くなり、出番が無くなってしまった様ですが、こういう技術が安全を支えていたのが良くわかりました!!

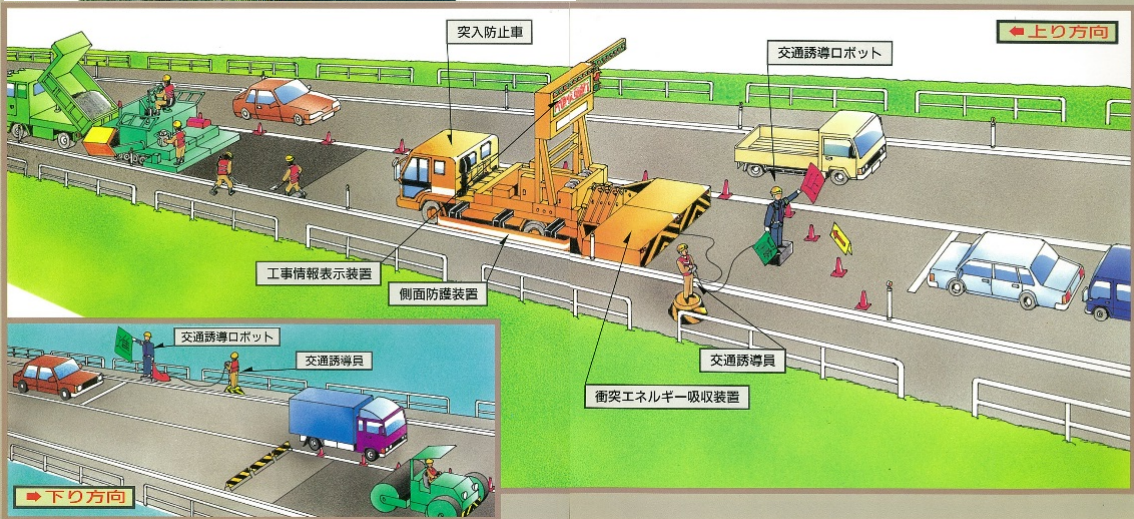




## ■構内の不思議な路面マーク???

2つ目は、写真Bです。小さな長方形の枠型が2つ並んだ痕跡ですが、これは、年表No.36の「突入防止車」の車体安定ジャッキの痕跡です。(実は筆者が開発担当者です)

この当時、路上工事の規制内に突入する車両により誘導員や作業員が被災する事故が多く、緊急対策が必要とされ、規制区域内に車両の突入があっても作業員、運転者双方の被災を低減する緩衝装置と視認性を高める標識等を装備した車載式突入防止施設を新たに開発したものです。これに交通誘導員に代わる誘導ロボットを加え、一体的な安全対策を狙いとしたものです。試作機による構内試験を行った時の痕跡です。設置の都度、跡がつかますが、突入された時に路面にジャッキがくい込み、車両が前に移動しないことを狙ったので、これで正解でした。開発は試作機1式で終了となりましたが、開発時の要素技術を取り入れた工事標識車(高所表示の標識と後方緩衝装置付き)が道路事務所に一定数配備され、活用されました。この間、緩衝装置に車両が突入する工事事故がありました。最近では、大型自発光式標識搭載車とクッションドラム等によるバリケードを使用する等、開発当時の状況から大きく変化しているので、開発の効果があったと思われます。



これにて、“東技師匠”により謎が解き明かされ、また、その時代を活躍した機械について深く知ることができた。また、開発者の苦労も知ることができた。まだまだ東北技術事務所には、歴史を感じ、気になる施設がたくさんある。さらなる謎について解明していきたい。

**結論：不思議な路面マークは、安全に対する機械開発の熱い思いと努力の痕跡であった。**

～東北技術事務所へお越しの際は、舗装の痕跡で歴史を感じてみてください。～



は～！  
師匠がなんと開発者だった  
なって～...



# 平成30年度 講演会等への発表(他機関が主催する講演会他)

## ●講演会等での発表

	年月日	講習会名	主催者(開催者)	発表論題	発表者
1	(H30.3月) 5月17日	災害に関する特別授業	宮城県多賀城高等学校	(風水害から命を守るために) 災害と国土	(東北技術事務所長 稲葉) (機械)副所長 宮本
2	11月20日	河川講習会	(一社)建設コンサルタンツ協会 東北支部 技術部会	河道管理における新技術の活用について	品質調査課 三浦

## ●雑誌等への投稿(掲載)

	年月日	冊子名	発行者	投稿論題	投稿者
1	8月	土木技術資料	(一財)土木研究センター	樋門等のひび割れ補修工法検討の取組	H29品質調査課 島田・難波・武田
2	10月	月刊建設	(一社)全日本建設技術協会	限られた予算の有効活用 コンパクトな治水対策の工夫	東北技術事務所長 稲葉



## 建設技術公開 E E 東北' 19 まもなく開催！ 2019年6月5日～6日 夢メッセみやぎ

建設技術公開 E E 東北は、建設事業に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開しその普及を図ることにより、さらに新たな技術開発の促進と良質な社会資本の整備を通じて、社会に寄与することを目的とし、平成2年から毎年開催しています。



29回目の開催となる E E 東北19は、2019年6月5日～6日夢メッセみやぎで開催します。建設技術の今を体感できる E E と東北19にぜひご来場ください！

E E 東北19の詳細についてはHPをご確認ください。※ E E 東北19で検索  
<http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/eetohoku/ee19/index.html>

## 事務局から

昨今、「平成最後の・・・」がはやりのキャッチになっております。ご多分に漏れず、ウェブフォルモス本号も「平成最後」となりました。さて、この平成という時代、読者の皆様には如何な時代だったのでしょうか？東北においては、今年で発災から丸8年を迎えますが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は忘れ得ぬ事象だったと思います。まだ途上ではありますが、道路、港湾、河川・海岸堤防は地域復興の基盤としてかなりの部分が復旧、そして新たに整備され、高台移転等の新たな「まちづくり」も進んでおります。一方で、住民の方々の安心安全の確保のため、多くのダムや堤防が整備されましたし、高速道路も縦貫方向、横断方向に多くの路線が整備されました。鉄道に目を転じて東北新幹線の全線開業、山形や秋田への新在直通運転、いわゆるミニ新幹線も開業しました。東北経済を支える根幹的社會資本の整備が急速に進んだのも「平成」であります。東北地方整備局としても、平成13年の中央省庁再編により、港湾部局と統合され、東北地方建設局から名称が変わっております。整備局も含め、建設業業界としては、平成においても「激動」と言う言葉が使える時代だったのではないのでしょうか。こうした中、東北技術事務所では、組織再編はあったものの常に「技術」「人材育成」そして「災害対応」この3つの「支援」を基本方針として業務を進めて参りました。新たな時代においても、これまで同様この方針の下、様々な情報をウェブフォルモスでお届けして参りたいと思っております。

(事務所長 記)

発行元

国土交通省 東北技術事務所 WEB formosus(フォルモス)発行事務局

〒985-0842 宮城県多賀城市桜木3丁目6-1 TEL022-365-8211(代表)

フォルモス事務局 品質調査課

FAX 022-365-7988

E-mail : [thr-tougi02@mlit.go.jp](mailto:thr-tougi02@mlit.go.jp)

事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/tougi/index.html>